

# 高遊外 売茶翁

こうゆうがいばいさおう

## 煎茶を浸透させた文化人。禅の真理を追い求めたその生き様。

《人物像》

- 老いてなお盛んな反骨精神
- 大勢に流されない芯の強さ
- 茶の世界を広げた風流人

### 煎茶で真理をわかち合った風流人

煎茶道の祖、高遊外売茶翁は延宝3年、佐賀蓮池支藩の藩医の三男として誕生。11歳で龍津寺に出家し僧名は月海。22歳で修行不足を恥じ江戸、仙台等各地へ出かけた。煎茶は長崎の中国僧から習った説もある。また、隠元禪師が京都宇治に開いた、黄檗山(おうばくさん)萬福寺でも修業、中国直輸入の文化に触れ、視野を広げた。晩年、龍津寺を弟子に託し再上洛。洛中に「通仙亭」という庵を構え、茶を売りながら禅や人の生き方を説いた。その姿に人々は親しみを込めて「売茶翁」と呼んだ。

通仙亭には文人墨客が集まり「売茶翁に衣服接待されなければ一流の文人とは言えない」といわれ、伊藤若冲や池大雅などが集まり、若冲は翁の肖像画も多数書き残している。漢文にも権能で、漢詩や和歌を残し、書家としても超一級の人物であった。「煎茶道の祖」と言われるのは、中国伝来の煎茶に精神的な方向性を示したこと。高僧でありながらその位を捨て、布施も取らずの茶業は、当時の体制や宗教界のあり方への反発で、真実の禅を実践したものだといわれている。

#### 【概略年表】

年	年齢	出来事
1675	延宝3年 1	5月16日、柴山李之進常名の三男として生まれる。幼名菊泉
1686	貞享3年 12	佐賀市の龍津寺に出家、僧名月海
1687	貞享4年 13	黄檗山萬福寺第4代独湛禪師に面会を許される
1688	元禄元年 14	龍津寺に帰り学問・修行に励む
1696	元禄9年 22	体調を崩し、江戸・京都を経て仙台の萬壽寺月耕禪師のもとで修行
1707	宝永4年 33	長崎で煎茶の知識を吸収
1731	享保16年 57	龍津寺を法弟大潮にゆずり、志を果たすため上洛
1735	享保20年 61	東山に通仙亭を構え、禅を説きながら売茶の業を始める
1742	寛保2年 68	高遊外に改名
1763	宝暦13年 89	7月16日、京都で寂死



▲肥前通仙亭の「煎茶体験セット」(500円)。他に石臼で抹茶をひいて飲めるサービスもある



あなたにとって売茶翁とは？

### 18世紀の京都文化に風穴を開けた革命家

NPO法人高遊外売茶翁顕彰会 代表  
川本 喜美子 さん



売茶翁は煎茶道の祖と言われていますが、本人が名を残す事にこだわらず、悠々と生きられるはずの佐賀の地を出、僧侶の位も捨て、お布施も取らず、当時の文化の中心である京都でお茶を振る舞い、自分の信条を説いて回りました。厳しい身分制度の時代、決して権力、大勢には準じず、どこにも媚びる事はなかったその生きざまは、今の私たちが忘れてしまったものを教えてください。正に一人で革命を起こしたような人物だと思います。京都文化の中心に静かに座っていたのが売茶翁です。

売茶翁を知る入門の一冊

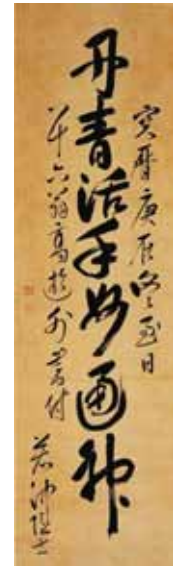
#### 「近世畸人伝」

江戸中期の伝記集でさまざまな職業・階層の奇異な行状を記したもの。売茶翁についてもその一人として紹介されている。

伴蒿蹊 著 / 中野三敏 校注・解説  
中央公論新社 刊 / 1523円



▲売茶翁像(比喜多宇隆筆/部分)(佐賀県立博物館蔵)



(足利義満600年忌記念「若冲展」図録より)



▲売茶翁が伊藤若冲に送った「丹青活手の妙、神に通ず」の一行書

▲肥前通仙亭展示の狩野秀頼の「楓園」。紅葉を楽しむ武士、僧侶、婦女子等を描いた風俗画の一部で、画面の左の人物が売茶翁と思われる

### 本名？あだ名？ 売茶翁の名前

売茶翁というのは実は名前ではなく、お茶を売る翁(おきな)という意味のあだ名のようなもの。本名ではないが、本人も時にはこの名前を記す事もあった。本名は柴山元昭、幼名は菊泉。僧侶としての名前は月海で、晩年は高遊外と名乗っていた。ちなみに高が姓で、遊外が名前。

### 難解だけど面白い 売茶翁のユーモア

「茶銭は黄金百鎰(いつ)より半文銭までくれしだい。ただにて飲むも勝手なり。ただよりほかはまけ申さず。」(訳:お茶の代金は小判二千両から半文までいくらでも結構。ただ飲んで結構。ただより安くはできません)これは売茶翁が煎茶を売る時に掲げた言葉。ユーモアあふれる言い回しに、ぜひ本人に会ってみたいくなる。

▲肥前通仙亭内にもこの言葉が掲げられている



### 自然に人が集う人柄 文化人が常に集う亭に

売茶翁のその自由な精神に魅かれるのか、周りには多くの人々が集まった。江戸時代の天才画家、伊藤若冲もその一人。人物画を描かなかった若冲がただ一人描いたのが売茶翁であり、売茶翁からももらった「丹青活手の妙、神に通ず(彩色の素晴らしいは正に神業である)」の一行書を印にし、絵に捺している程心酔していた。



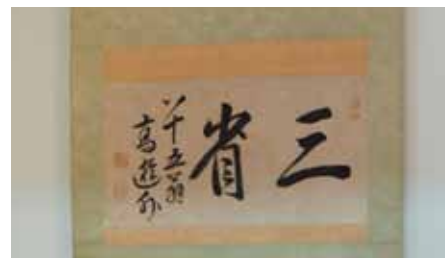
▲「売茶翁傳話」(ばいさおうげん) 売茶翁亡き後、大典顕常など当時の文化人が、その口述などをまとめた本。巻頭の肖像は伊藤若冲作(肥前通仙亭蔵)



▲「梅山種茶譜略」(ばいざんしゅちゃふりやく) 売茶翁が著したお茶の歴史や作法などをまとめた本(肥前通仙亭蔵)

### 不憫な思いはさせない 茶道具への深い愛情

死期を感じた売茶翁は売茶業を廃し、自分の茶道具も燃やしてしまう。これは自分の死後、俗世に渡り、売買されるようなことになれば、茶道具自身が悲しむとの思いであり、売茶翁の道具に対する愛情の表れだった。



▲85歳の時の売茶翁直筆の書。「三省」とは中国の曾子(そうし)の言葉で、「毎日何度も自分の行動を反省する」の意(肥前通仙亭蔵)

《京都に行くなら》

萬福寺の売茶堂  
売茶翁が修行した黄檗宗の総本山、萬福寺には売茶翁を祀る「売茶堂」があり、現在も月に一度、売茶翁を仰ぐ「売茶忌」が執り行われている。



◎京都府宇治市五ヶ庄三番割34

### 売茶翁足跡探訪コース【約3時間】(移動約65分+観光散策約115分)

モデルコース 日本茶栽培の発祥地から売茶翁ゆかりの地を巡り、お茶を親しみ、禅を体験する



霊山寺跡の茶園

地図▶P34 D-2

日本茶栽培発祥の地。1192年栄西禪師が中国から持ち帰ったお茶を当時九州一の山岳仏教の聖地だった脊振山腹で栽培した。

◎ 神埼郡吉野ヶ里町松隈宇坂本付近 ◎ 吉野ヶ里町東脊振庁舎商工観光課 ☎0952-37-0350



龍津寺

地図▶P34 C-4

売茶翁が幼い時出家したお寺。現在はお堂が焼失し小さな庵を残すのみ。売茶翁の顕彰碑や柴山家のお墓が建っている。

◎ 佐賀市巨勢町東西132付近 ◎ 佛心寺 ☎0952-24-8528



肥前通仙亭

地図▶P35 H-7

売茶翁に関する資料の展示や情報発信の拠点。直筆の書など、ゆかりの品も充実。もちろん美味しい煎茶も頂ける。

◎ 佐賀市松原4-6-18 ◎ 9:00~17:00 ◎ 月曜(祝日の場合は翌日)、年末年始 ◎ 見学無料 ◎ ☎0952-97-7377



佛心寺

地図▶P35 G-7

かつて龍津寺にあった「刺繍地藏菩薩像」が安置されている。売茶翁ともゆかりが深く、住職からも楽しい話が聞ける。

◎ 佐賀市大財4-3-14 ◎ ☎0952-24-8528



大興寺

地図▶P35 G-6

売茶翁と同じ黄檗宗のお寺で、「禅」の体験や勉強会も定期的開催されている。ご希望の方はお問合せを。

◎ 佐賀市神野東3-10-3 ◎ ☎0952-33-1713